



(写真) YouTube「Alex Saab」 “アレックス・サアブ氏”

Alex Saab 米国身柄引き渡し

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

1 0月16日 カボベルデで拘束されていた
コロンビア人企業家アレックス・サアブ氏の
身柄が米国に引き渡された(「ベネズエラ・トゥデイ
No. 666」)。

マドゥロ政権はサアブ氏の引き渡しに怒り、10月
17日から始まる予定だった与野党協議を中止する
と宣言。現在も再開の見通しは立っていない。
マドゥロ政権にここまで影響を与えるサアブ氏はど
んな人物なのか?本稿では、サアブ氏の半生と彼の
逮捕に隠されたイレギュラーについて紹介したい。

アレックス・サアブ 制裁と対峙した男

アレックス・サアブ氏には様々な肩書がある。
「テストフェロ(政府高官の蓄財に協力する人物)」
「フィクサー(コネを駆使し、非正規なルートで働き
かけを行い、問題を解決する人物)」
「企業家」「外交官」
「コロンビア人」「ベネズエラ人」「アラブ人」
「制裁と対峙した男」
など。

これらの肩書は、どれも事実。メディアがどのような
意図をもって彼を説明するかで変わる。

以下では「サアブ氏の生い立ちからマドゥロ政権と
の契約で行った公共事業など」を紹介し、

その後、「どうして1年以上もサアブ氏の身柄が米国に引き渡されなかったのか」について紹介したい。

なお、サアブ氏が、どのような罪状で米国に指名手配されているかは既に「[ウィークリーレポート No.131](#)」で紹介済みなのでサアブ氏の汚職の部分については過去レポートを確認されたい。

また、カボベルデでサアブ氏が逮捕された直後の動きについては「[ウィークリーレポート No.153](#)」で紹介している。

最初に彼の生い立ちから始めたい。

サアブ氏は、1971年12月21日、コロンビアのバランキージャ生まれ。レバノン人とパレスチナ人の間に生まれた。

両親はもともと中東地域に住んでいたが、シオニズム(ユダヤ人の国家建設運動)の紛争から逃れるためにコロンビアに移住したという。

親は商才があったようで、コロンビアで縫製業を成功させ、服を10カ国に輸出。英国 Clarks と靴の生産で独占契約を結ぶなど成功した事業家となり、直接・間接的に2万人の雇用を支えていたという。サアブ氏は、小さいころからこの会社の経営に関わっていたようだ。

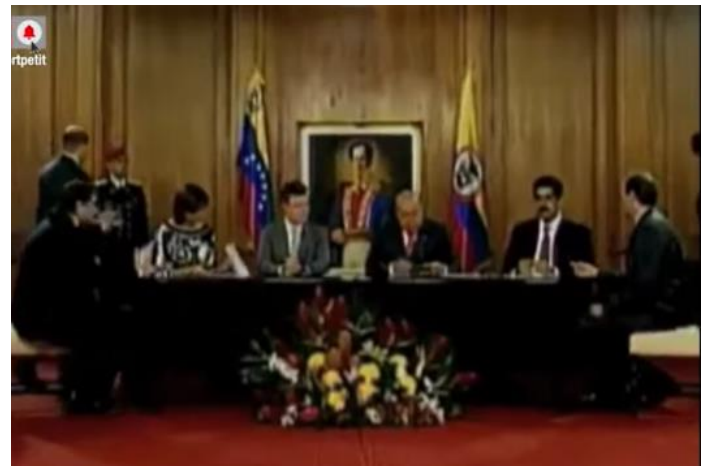
また、サアブ氏は16歳でドイツに留学し、欧州の技術を学び、コロンビアの経営に生かしたという。

サアブ氏がベネズエラとの経済関係を持ち始めるのは2000年。

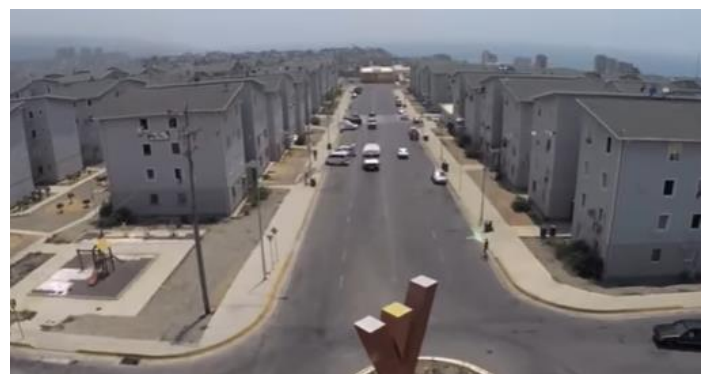
サアブ氏の会社が生産する衣類をベネズエラに販売することから始まった。

そして、ベネズエラ政府の取引に深く関わるようになったのは2011年。サアブ氏は縫製業とは全く関係のない建設事業を FONDO GLOBAL DE CONSTRUCCION の名前で受注した。

内容は、ベネズエラ政府の貧困層向け住宅建設事業。2.5万戸の住宅を建設するという内容。コロンビアからはサントス大統領が出席するなど政府間合意に携わった。なお、米国政府は、この受注金額が異常に高額だったと指摘している。賄賂が支払われたとすればコロンビア側にも流れているだろう。



(写真) 実際の契約時の写真



(写真) Alex Saab

“チャベス政権が行った住宅建設プロジェクト”

更に同じ年にサアブ氏は、バルガス州の野球スタジアム建設工事も受注した(下写真)。



(写真) Alex Saab “Hugo Chavez スタジアム”

その後、2016年に入りマドゥロ政権は、現在も続くマドゥロ政権の目玉プロジェクト「CLAP(安価な価格で基礎食料品のセットを購入できるプロジェクト)」を発表。

サアブ氏はこの事業に深く関与。メキシコ、トルコ、コロンビアなどからCLAPセットに入れる食料品を調達した。

その働きが評価されたためか、サアブ氏は2018年4月にマドゥロ政権の特使のステータスを得て外交官になったという。サアブ氏が特使となった理由は、米国の制裁によりマドゥロ政権の商取引を支援するのが困難になっており、外交的な保護が必要だったためだという。

なお、サアブ氏がいつベネズエラ国籍を取得したのかは不明だが、外交官ステータスを得たこの時にベネズエラ国籍を取得した可能性は高い。

そして翌年の2019年7月 米国の「外国資産管理局(OFAC)」は、サアブ氏を制裁対象者に指定した([「ベネズエラ・トゥデイ No.322」](#))。

そして2020年 米国は経済制裁を強化しロシアの「Rosneft Trading」に制裁を科した([「ベネズエラ・トゥデイ No.408」](#))。そして、米国の圧力を受けてロシアはベネズエラから事業を撤退した。

「Rosneft Trading」は、ベネズエラの原油を輸出する仲介役を担っており、ロシアの支援がなくなったことでベネズエラは窮地に追い込まれる。

サアブ氏は、タレク・エル・アイサミ経済担当副大統領からこの状況を打開するミッションを受け、イランとの経済関係強化、制裁回避ネットワークを構築したという。

しかし、2020年6月12日 イランに向かう途中に給油のために立ち寄ったカボベルデで拘束され、約1年4か月後の2021年10月16日に米国に引渡された。

逮捕令状なしでサアブ氏を逮捕

サアブ氏の身柄引き渡しにここまで長い時間がかかったのには理由がある。というより、恐らくサアブ氏の逮捕には法的な問題がいくつもあるようだ。

犯罪者を取り締まること自体は倫理的に正しいが、逮捕プロセスの面で様々な問題があったことが判明している。

まず1点目は、逮捕令状が出ていなかったこと。サアブ氏が逮捕されたのは2020年6月12日午後8時だった。飛行機を降りよう命じたのはカボベルデ検察庁のNatalino Correira 検事。



(写真) tIPHEROES

“Natalino Correira 検事 (写真右側の人物)”

サアブ氏を拘束した際、Correira 検事は「インターポールから逮捕令状が出ている」と説明したようだが、後に逮捕令状が出ていなかったことが判明している。

そもそも米国側でも逮捕令状は出ておらず、カボベルデでも逮捕令状が出ていなかった。

カボベルデの規則では逮捕には裁判所から事前に許可を得る必要があるが、これらの手続きが存在しなかったという。

そもそもカボベルデと米国は犯罪者の引き渡し協定が存在していないため、米国がカボベルデに拘束を求める取り決まりが存在していない。

従って、米国がサアブ氏の拘束を要請したとしてもすぐに拘束できることは本来なかったという。

なお、サアブ氏の弁護人の説明は、今回の拘束を主導したのはカボベルデの Paulo Rocha 内務相で、大統領と首相はサアブ氏の逮捕について関与していなかったと主張している。このイレギュラーな対応について、弁護団は米国から何らかの見返りを約束にサアブ氏拘束に協力したと主張していた。

2点目の問題は逮捕後のサアブ氏の待遇。

実際にインターポールからサアブ氏の逮捕令状が出たのは拘束から16日後の6月28日だったという。

弁護団は、それまでサアブ氏は逮捕令状がない状態で逮捕されていたと主張している。

この間、サアブ氏は、米国の Carlos Reiss 氏 (米国国家安全保障省の関係者)、米国司法省の関係者、カボベルデの Jose Landim 検事から、任意での米国への身柄引き渡しに同意するよう強要されていたという。

3点目は、サアブ氏はベネズエラの外交官という肩書があり、ウィーン条約(36条)で外交官の移動の自由は保障されているというもの。

マドゥロ政権は、サアブ氏の拘束はウィーン条約違反だと主張している。なお、サアブ氏は最終的に拘束されている途中でアフリカ連合のベネズエラ代表大使に任命されていた。

イレギュラーの多い身柄引き渡し

これらの理由からサアブ氏弁護団とマドゥロ政権はサアブ氏の逮捕を不当逮捕と主張し、即時解放を求めていた。

この主張をサポートしたのが「西アフリカ諸国経済共同体 (ECOWAS)」。

なお、カボベルデは ECOWAS に加盟している。

2021年3月 ECOWAS 裁判所は、サアブ氏の拘束は違法との判決を下し、カボベルデ政府に対してサアブ氏の解放を命じた。また、サアブ氏の名誉棄損を理由に20万ドルの支払いも命じていたようだ。

これらの問題があり、米国へのサアブ氏の身柄引き渡しには問題があったようだが、カボベルデ最高裁は引き渡しを合法と判断。今回の引き渡しに至った。

なお、サアブ氏の身柄引き渡しがこのタイミングで行われたことには1つの理由があるようだ。

10月17日 カボベルデで大統領選が行われ、左派系「PAICV」(マルクス主義、共産党系)の José María Neves 候補が当選した。

カボベルデの憲法は詳しく知らないが、過去の大統領選の日と大統領交代のタイミングを見る限り、選挙結果が出た後1カ月くらいで大統領が交代している。

つまり、カボベルデは11月中に左派系の政権が発足することになる。左派政権に交代すればサアブ氏の引き渡しがとん挫する。

米国は現政権側の敗北を予見し、政権が変わる前にサアブ氏の身柄を引き渡させたとの指摘もある。

あくまで仮説だが、十分説得力がある指摘だろう。

以上